

初級日本語教科書で「てあげる」は どう扱われているのか

小口悠紀子・帖佐幸樹

◆要旨

授 受表現「てあげる」は、聞き手に不快感を与える産出が見られることから、初級教科書で扱う必要がないという主張がある(田中2005)。しかし、実際には多くの教科書に残っている。この理由として、本稿では(1)初級で扱わない代わりにいつどのように扱うべきか、(2)指導項目から外した場合のような副作用が生じるか、という点について十分検討されていないことを指摘する。その上で(1)「てあげる」が初級教科書の導入・練習でどのように扱われているのか、(2)恩着せがましきに対してどのような記述がされているのか、という観点から教科書分析を行い、学習者の運用につながる文法記述の必要性を論じる。

◆キーワード

授受表現、てあげる、日本語教育文法、体系主義の悪影響、教科書分析

◆ABSTRACT

Tanaka (2005) argues that the benefactive expressions *te-ageru* does not need to be dealt with in basic-level textbook because examples of offending the emotions of listeners can be found. In this paper, we first pointed out that *te-ageru* has not been sufficiently examined in the following two aspects, (1) how and when should we deal with *te-ageru* instead of dealing with it at the basic-level, and (2) what are the side effects of not teaching *te-ageru* in the textbook. Next, we analyzed textbooks from the perspectives of (1) how *te-ageru* is treated in the introduction and practice of basic-level textbooks, and (2) when does *te-ageru* offend the listener's feelings. Finally, we argue for the need for grammatical descriptions and lead to learners' performance.

◆KEY WORDS

benefactive expression, *te-ageru*, the pedagogical grammar of Japanese, "negative effects of systematism", analysis of basic-level Japanese textbooks

The Teaching of Benefactive Expression '*te-ageru*' in Elementary Japanese

YUKIKO KOGUCHI & HIDEKI CHOSA

1 はじめに

日本語の授受表現は、世界の言語の中でも最も複雑な体系だとされる（山田2011）。日本語教育において、「あげる」「くれる」「もらう」は一括りとして扱われることが多く、日本語の教科書ではこれらが導入された後に授受補助動詞「てくれる」「てもらう」「てあげる」が導入される。しかし、「てあげる」に関しては、下記の（1）のように聞き手に不快感を与える使用が産出される可能性があることから、初級教科書では扱う必要がないとする主張がある（田中2005）。また、下記の（2）についても恩着せがましい印象がぬぐえない。

（1）台湾、各国からのお客さんの苦情の、あの、データを翻訳したり解決してあげたり、そういう仕事をやっております。

（KYコーパス中国語話者 超級 CS03 田中2005:71-72）

（2）柳澤先生のお誕生日はゼミ生が一緒に過ごしてあげましたよ。

（中国語話者 2021年5月筆者収集）

庵（2019）は、現在の学習者層の変化に対して、現行の初級シラバスには必要な項目が多すぎると問題提起している。白川（2005）でも、学習者の視点に立った日本語教育文法の必要性を唱えた上で、授受表現の全てを初級レベルの指導項目として一度に扱うことは「体系主義の悪影響」（野田2005:6）だと指摘している。上記のような流れを合わせて考えると、初級における授受補助動詞の「てあげる」の扱いについては、田中（2005）が言うように、再考の余地がある。

しかし、実際には現在も「てあげる」は多くの教科書の導入項目として残っている。中には、説明のみに留めたり、練習文を減らしたりするなど、学習者による恩着せがましい発話を防ぐために配慮しているものもあるが、初級教科書から完全になくなっていない。その理由として、「てあげる」を初級教科書で扱わない場合、代わりにいつどのように扱うべきかについての議論が進んでいないということがある。また、「てあげる」を指導項目からなくした場合の

ような副作用が生じるかについても十分検討されていない。今後、こうした議論を進めるにあたっては、コーパスなどを用いて使用実態を調査し、それをもとに提案を行うことも重要であるが、その前に現行の初級日本語教科書において「てあげる」がどのように扱われているかを整理し、把握する必要がある。

そこで本稿では、初級日本語教科書における「てあげる」を対象に、導入・練習でどのように扱われているのかを整理する。また、「てあげる」が持ち得る恩着せがましさに対してどのような配慮がなされているかという観点から考察を行う。

2 先行研究と本研究の立場

「てあげる」は、恩恵を表す授受補助動詞の1つとされ（日本語記述文法研究会（編）2009）、日本語教科書や日本語教育の研究においては、「てくれる」「てもらう」と合わせて扱われることが多い。

庵他（2001）では、「てやる・てあげる」及び「てさしあげる」は話し手側の人の意志的行為によって第三者または聞き手が恩恵を受けることを表すとされる。そのため、話し手側の人の意志によって恩恵の状況が作り出されているという解釈がされ、恩着せがましい印象を与えることが指摘されている。また、守屋（2002）では、(3)のように、話し手が上位者の聞き手に対して、聞き手の利益になる行為を行うことを申し出る場合に「てあげる」を用いると不適切であると指摘している。それに加えて、庵（2011）は、(4)を挙げ、受益者が聞き手の場合だけでなく、第三者の場合であっても、目上の場合には不適格になると記述している。このように「てあげる」は、相手に不快感を与える使用につながる可能性を持つため、学習者への指導の際には注意が必要である。

(3) [忙しそうな先生に] 忙しそうですね。お手伝いしてあげましょう。

(守屋2002: 9^[註1])

(4) a 息子に本を読んであげた (読んでやった)。

b ??先生に本を読んであげた。

(庵2011: 52)

田中（2005）は語用論的に聞き手に良い印象を与えない可能性のある「てあげる」を、必ずしも「てくれる」「てもらう」と一緒に教える必要はないとし、初級の指導項目から外すべきだと主張している。この背景には、日本語学習者の多様化が進む中、指導項目を「コミュニケーションにほんとうに必要な文法」（野田2005:5）に絞っていくべきだという指摘、現行の初級シラバスには不必要な項目が多すぎる（庵2019）という考え方が存在する。本稿の立場も、基本的には野田（2005）、庵（2019）に賛同する。しかし、この点において、教科書の記述を変えていくには、以下2つの課題が残されている。

- （5）「てあげる」を初級教科書で扱わないことを提案する代わりに、いつものように扱うべきなのかについて十分議論が進んでいない。
- （6）「てあげる」を初級の指導項目からなくした場合の副作用について、等閑視されている。

これらを解決するためには、日本語指導の現状と使用実態の両方を把握した上で議論を行う必要がある。本稿ではその第一段階として、日本語指導の現状を把握するために、日本語教科書や教師用指導書の分析を行う。具体的には、「てあげる」が導入・練習でどのように扱われているのかを整理し、恩着せがましさに対してどのような配慮がなされているかという観点から、日本語教科書における「てあげる」の扱いについて考察する。分析の観点は下記2点である。

- （7）教科書の導入・練習で扱われている例文に特定の傾向が見られるか。具体的には、与益者が話し手か否か。また、受益者への直接使用か否か。
- （8）教科書や指導書などにおいて、恩着せがましさへの説明がどのようになされているか。具体的には、受益者の性質（目上、非親密性など）にどう言及されているか。

3 分析

本稿で分析対象とする教科書・教師用指導書を以下に述べ、以降、本文中で

は略称を用いる。本稿では初級レベルの日本語学習者を対象とするものうち、内容を4技能の一部などに特化していない総合的な教科書11冊と教師用指導書3冊の計14冊を分析対象とした。対象とする教科書は、高橋・白川(2006)、岩田(2011)、中俣(2014)、小口(2016)らの教材分析研究を参考に、国内外の日本語教育機関で広く取り上げられていると考えられるものを選んだ。調査した教科書の名称と略称は以下の通りである(年代順^[註2])。①『日本語初歩』(初歩)、②『Situational Functional Japanese Vol.2: NOTES 第2版、DRILLS 第2版』(SFJ)、③『日本語初級1大地 メインテキスト』(大地)、④『初級日本語 下』(初級)、⑤『初級日本語 げんきⅡ 第3版』(げんき)、⑥『いっぽにほんごさんぽ 暮らしのほんご教室 初級2』(いっぽ)、⑦『できる日本語 初中級 本冊』(できる)、⑧『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』(みんな)、⑨『文化初級日本語Ⅱテキスト 改訂版』(文化)、⑩『まるごと 日本のことばと文化 初中級 A2/B1』(まるごと)、⑪『ななかま2 THIRD EDITION』(ななかま)。次に教師用指導書については、⑫『日本語初級1大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』、⑬『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ改訂版 教師用指導例集』、⑭『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 教え方の手引き』の3冊である。これらは当該項目に関する説明を、教科書執筆者の立場や考えを知る手がかりとして考察の対象とした。なお、『日本語初歩』については、2012年に刊行が終了しているが、他の日本語教科書作成時に参考にされた可能性があることを踏まえ、今回は分析対象とした。

例文を抽出する対象は教科書の導入・練習部分であるが、音声で導入される場合や解答に現れる場合には解答やリスニング用スクリプトも対象とした。その結果、全139例を抽出し、筆者2名で分類作業を行った。なお、導入・練習を意図していない解説文中の用例は抽出の対象としていない。また、次の(9)のように、引用句内に現れる「てあげる」の3例は本稿では考察対象外とし、最終的に136例を分析対象とした。

- (9) 小林さんの手紙に「とうろん会の後で、大学の中を案内してあげましょう。」と書いてありました。(初級 本文)

各教科書における授受表現の本動詞と補助動詞の導入順序を表1に示す。授

表1 初級日本語教科書における授受表現の導入順序（数字は導入課）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
略称	初歩	S F J	大地	初級	げんき	いっぽ	できる	みんな	文化	まるごと	なかま
あげる	29	13	10	8	14	19	初8	7	22	初2A2 17	6
もらう	29	13	10	8	14	19	初8	7	22	初2A2 17	6
くれる	29	13	22	8	14	38	初8	24	24	—	6
てあげる	29	14	22	22	16	—	初中8	24	28	初中A2B1 6	9
てもらう	29	14	22	22	16	38	初中8	24	28	初中A2B1 4	9
てくれる	29	14	22	22	16	38	初中8	24	28	初中A2B1 4	9

授受表現を導入するタイミングは教科書によって異なるが、『初歩』『SFJ』を除いて、授受補助動詞は授受動詞と少し期間を空けてから導入されている。また、『いっぽ』『まるごと』を除いて、3つの形式が同じ課で導入されている。

4 結果

4.1 導入・練習で扱われている例文に特定の傾向が見られるか

教科書の導入・練習で扱われている「てあげる」の例文を与益者・受益者が会話の場にいる（話し手・聞き手）か、いない（第三者）かに着目して分類した結果、4種のタイプが見られた^[注3]。各教科書における用例数を表2に示す。

なお、『SFJ』において、「てあげる」は文法知識として紹介されるものの、学習者に練習させる項目には含まれておらず、教師用指導書でも扱いがたい。また、地域日本語教室向けに作成された『いっぽ』においては、「てあげる」はコラムでの紹介に留められ、導入や練習項目としては扱われていない。これら2冊は「てあげる」を紹介する傍ら、この表現が恩着せがましきのニュアンスを含み得ることに配慮し、「ましようか」を使用することを学習者に推奨している点で他と異なっている。

ここからは、教科書に出現する例文のタイプ4種について説明する。

表2 教科書に出現する「てあげる」文の4種のタイプおよび出現数

			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
	与益者	受益者	初歩	S F J	大地	初級	げんき	いっぽ	できる	みんな	文化	まるごと	なかま	合計
A	話し手	聞き手	1	0	0	0	10	—	9	0	0	0	4	24
B	話し手	第三者	17	3	10	4	17	—	0	15	6	6	9	87
C	第三者	第三者	1	1	0	1	1	—	0	1	0	0	6	11
D	聞き手	第三者	4	0	3	0	2	—	0	1	2	2	0	14

(A) 与益者が話し手、受益者が聞き手とは、(10) や (11) のような例を指す (以下、明示されている場合には与益者を二重下線、受益者を波線で表す)。

(10) A : へえ、私も作ってみたい。

B : じゃ、今後作り方 (を) 教えてあげる。 (できる いってみよう)

(11) A : 友達がいなくてさびしいんです。

B : そうですか。私の友だちを紹介してあげましょうか。(げんき 練習)

『できる』では、話者の過去の経験に聞き手が興味を持っているという文脈、『げんき』では、聞き手が風邪をひいていたり、困っているという文脈において、聞き手が喜ぶであろうことを話者が申し出たりする場面での使用である。

(B) 与益者が話し手、受益者が第三者とは (12) のような例のことを指す。

(12) 私は妹にお金を貸してあげました。

(げんき 文法)

主に、自分が過去にしたことを報告として述べる場面における使用である。例文や練習文としての出現が最も多いが、文脈を伴わない機械的な練習で使われることが多かった。

(C) 与益者が第三者、受益者が第三者とは (13) のような例のことを指す。

(13) きょうこさんはトムさんを駅に連れて行ってあげました。(げんき 文法)

教科書では、第三者が話し手側の立場から表現される場合もあることを示す例として用いられており、1例のみの出現が多い。なお、『なかま』での出現数が6例と多いのは、図解や使役表現と複合的に解説されているページを含んでいることによる。

(D) 与益者が聞き手、受益者が第三者とは(14)のような例のことを指す。

(14) 太郎くんは母の日に何をしてあげますか。

…ピアノを弾いてあげます。 (みんな 例文)

これは、会話練習などで「てあげる」での回答を引き出す質問文として出現していた。

さて、全体の傾向を見ると、(B) 受益者が第三者である例文が87例と最も多かった。これは、与益者が話し手、受益者が聞き手の場合、恩着せがましく聞かえる可能性があることに配慮していると考えられる。

だが、コミュニケーションの目的を考えると、「てあげる」を用いる必然性が低い練習も見られる。具体的には、(A) 与益者が話し手、受益者が聞き手である例について、『げんき』では10例中8例、『できる』では9例中5例を練習問題として提示していた(図1)。『げんき』は困っている友人に対して、『できる』は話し手の経験や所有物に興味を示す友人に対して、話し手が、友人が喜ぶであろうと予想する行為を申し出る場面での練習であった。

(15) A : 友達がなくてさびしいんです。

B : そうですか。私の友だちを紹介してあげましょうか。 (再掲11)

(16) A : へえ、写真(を)見たい。

B : じゃ、今度見せてあげる。 (できる 言ってみよう)

いずれも聞き手が助けを求めている文脈を提供することで、「てあげる」を用いた申し出表現が使いやすい状況を提示している。しかし、これらは「ましょうか」「ようか」での言い換えも可能な状況であり、「てあげる」を使用する必然性が学習者に十分に示されていない。



- 例 A: Bさん、週末、何(を)した?
 B: 写真(を)撮りに行った。
 A: ふーん、どこへ行ったの?
 B: 高尾山。きれいだったよ。
 A: へえ、写真(を)見たい。
 B: じゃ、今度見せてあげる。
 A: ありがとう。



図1 できる 言ってみよう (p.106) より抜粋

一方で、(A) 与益者が話し手、受益者が聞き手の例文が4例出現していた『なかま』では、4例中3例において上記2冊とは異なる特徴が見られた。具体的には、「たい」という文末表現に加え、「けど」という接続助詞を伴う使用であることで、恩着せがましさが軽減されているように感じられる。

(17) A: あもう、10ドルかしてくれない?

B: ごめん。かしてあげたいけど、持ってないんだ。(なかま Activity5)

中俣(2014)では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』に現れる「てあげる」を調査している。その結果として、「てあげる+接続助詞」の出現数が13.7%、「てあげたい」が7.6%、そして「てあげようか」が6.7%であると指摘し、他の形式と比較して後続に表現が続く確率がかなり高いと述べている。以下の(18)や(19)のように、話し言葉コーパスでも同様の使用が見られることから、(17)のような複合形式の使用は、実際のコミュニケーションをふ

まえると、教科書で積極的に取り入れていくべきであろう。この点については、今後、コーパス調査などをもとに議論を進めたい。

(18) A：食べれるかなー。今日作るやつが結構大量だったら食べきれないかも。

B：いいわよ。私が食べてあげるから。 (名大会話コーパス data080)

(19) そのためにも早く（子供を）産んであげたいけど。

(J-TOCC日本の未来 東日本 女女 E-313-15)

4.2 恩着せがましさへの説明がどのようになされているか

教科書や教科書に付随する教師用指導書における恩着せがましさに関する説明文を、「誰に対して使用すると恩着せがましくなるのか」という観点から分類した。その結果、恩着せがましさに関する記述はAタイプに集中していることが分かった。さらに、その記述を表3に示すように(A-1)～(A-3)の3つのタイプに分類した。なお、表中の○記号は恩着せがましさに対する記述があることを示す。

表3 日本語教科書における「てあげる」が持つ恩着せがましさへの説明

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
		初歩	S F J	大地	初級	げんき	いっぽ	できる	みんな	文化	まるごと	なかま
A-1	目上・直接			○			○		○			
A-2	非親密・直接								○		○	
A-3	一般・直接		○							○		
Aタイプの例文出現数		1	0	0	0	10	—	9	0	0	0	4

(A-1)「目上・直接」とは、(20)のような記述、(A-2)「非親密・直接」とは、(21)のような記述である。なお、この記述には目上・直接の記述も含まれている。3つ目の(A-3)「一般・直接」とは、(22)のような記述である。

- (20) この表現は押しつけがましい印象を与える場合があるので、話し手が目上の人のために何かをする／したことを、その人に向かって直接話すときには使わないほうがいいでしょう。

(大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」)

- (21) 「～てあげます」はあまり親しくない人や目上の人に対して用いると押しつけがましく聞こえ、失礼になるので、相手に対して直接使うことは避けるよう指導する。

(みんな 教え方の手引)

- (22) 目の前にいる相手に対して、「私は～てあげる」と言わないほうがいいことを説明する。

(文化 教師用指導例集)

このうち、(A-2)「非親密・直接」および、(A-3)「一般・直接」に分類された記述、すなわち、(21)にあるように親しさが恩着せがましさに影響するとする記述や、(22)にある目上かどうにかかわらず恩着せがましくなるというような記述は、過去に言及している論文が見当たらなかった。

次に、恩着せがましさに対する記述が見られる教科書には、受益者が聞き手である例文、すなわち、Aタイプの例文が出現していないことが分かった。先の分析結果と合わせると、初級日本語教科書には主に次の4つのタイプが存在していることが分かった。

- (23) 「てあげる」を言語項目として紹介するのみに留め、産出練習の対象とはせず、申し出の場面では「ましょうか」を用いること推奨しているもの (SFJ、いっほ)
- (24) 「てあげる」は導入、練習の対象となるが、受益者が第三者の場合のみ例文を提示するもの (初級)。さらに、受益者が聞き手の場合には恩着せがましく聞こえるという解説を示すもの (大地、みんな、文化、まるごと)
- (25) 「てあげる」は導入、練習の対象となるが、受益者が聞き手の場合には例文を示すのみに留め、産出練習には含めないもの (初歩)
- (26) 「てあげる」を導入・練習の対象とし、受益者が聞き手である場合でも、申し出の場面で積極的に扱うもの (げんき、できる、なかま)

しかし、このうち (26) に出現するAタイプの例文23例中のうち20例は申し出表現としての使用であり、そのうち19例が「ましょうか」「ようか」に言い換えても、申し出というコミュニケーション上の目的を達成することが可能な例であった^[註4]。

5 考察

本研究の結果から、初級日本語教科書の導入・練習に現れる「てあげる」の例文は、与益者と受益者という観点から (A) ~ (D) の4つに分類することができ、(27) のように (B) 与益者が話し手、受益者が第三者の場合の例文が最も多いことが分かった。これは、(28) のように (A) 与益者が話し手、受益者が聞き手の場合、恩着せがましく聞こえる可能性があるという考え方への配慮であろう。その証拠に、恩着せがましきに対する注意や説明の記述が見られる教科書には、受益者が聞き手である (28) のような例文は出現していない。

(27) わたしはカリナさんを駅までおくってあげました。 (みんな 練習A)

(28) A : へえ、私も作ってみたい。

B : じゃ、今後作り方(を)教えてあげる。 (再掲10)

一方で、(A) 与益者が話し手、受益者が聞き手の場合が必ずしも恩着せがましくなるのかと言えばそうではなく、文末表現や接続助詞を伴うことで恩着せがましい印象が軽減すると捉えられる (29) のような例も見られた。

(29) ごめん。かしてあげたいけど、持ってないんだ。 (再掲17)

また、恩着せがましきに対する記述はAタイプに集中していることが分かった。だが、実際の発話を見ると、(30) や (31) のように (B) 与益者が話し手、受益者が第三者の場合であっても恩着せがましく聞こえる例は存在する。なお、(30) は田中 (2005) の議論の出発点となった例である。

- (30) 台湾、各国からのお客さんの苦情の、あの、データを翻訳したり解決してあげたり、そういう仕事をやっております。(再掲1)
- (31) 柳澤先生のお誕生日はゼミ生と一緒に過ごしてあげましたよ。(再掲2)

この点については庵(2011)が既に指摘していることであるが、分析した教科書や教師用指導書においてはこれに関する記述は見られなかった。

以上をふまえると、(A)「与益者が話し手、受益者が聞き手」であるという関係性だけで例文を一括りに除外するという多くの日本語教科書の現状の対応や、初級の学習項目から「てあげる」を外すという田中(2005)の提案は、学習者に「てあげる」を消極的に紹介するという対症療法的なものに過ぎないと言える。学習者が日常生活において受ける「てあげる」のインプットを完全になくすことは不可能であるにもかかわらず、学習者の運用につながる文法記述は圧倒的に不足している。「てあげる」が果たす役割や恩着せがましさに関する記述の仕方、複合形式の「てあげる」の扱いも含めて、今後母語話者の発話データを用いて検証したのち、丁寧に検討していく必要がある。

本稿では、「てあげる」を初級で扱わない代わりにいつどのように扱うべきか、また、指導項目から外した場合どのような副作用が生じるか、という問題意識のもと、初級教科書を分析した。その結果、学習者が「てあげる」を適切に運用するために必要な文法記述について検討することが喫緊の課題であることが浮かび上がった。今後は、コーパスデータを分析することにより、使用実態を把握することで、議論を精緻化していきたい。

〈小口：広島大学／帖佐：東亜大学〉

付記

本稿は、日本語／日本語教育研究会第13回大会での口頭発表に加筆・修正を加えたものです。会場で貴重な意見をくださった皆様、査読者の皆様にお礼申し上げます。本稿は、科学研究費助成事業若手研究(B)課題番号17K17989、および、令和3年度広島大学研究支援員制度の助成による研究成果の一部です。

注

- [注1] …… 例文(3)は、守屋(2002:9)では「[忙しい先生に] 忙しいですね。(お手伝いしてあげましょう/手伝ってほしいですか/手伝いしましょうか。)」となっているが、本稿では考察に関わる「お手伝いしてあげましょう」の部分のみを引用した。
- [注2] …… 教科書作成時には、既に出版された他の教科書が参考にされた可能性もある。そこで、各教科書を初版の年代順に並べ、「てあげる」に関する例文や記述に教科書間の影響が見られるかも考察した。しかし、顕著な傾向や流れは見受けられなかったため、本稿では現行の教科書の出版年順に提示する。
- [注3] …… そのため、受益者については二格をとる場合に限らない。調査した136例の受益者の格の内訳は、受益者の非明示が65例、二格が41例、ヲ格が18例、ノ格(例:カリナさんの自転車を修理してあげました)が11例、ト格1例、そして「のために」が1例であった。なお、格の合計が137例になるのは、『なかま』に以下の次のような例文があり、二格とヲ格をそれぞれカウントしたためである。(例)先輩は後輩を/にすわらせてあげた。(なかま)
- [注4] …… なお、申し出の場面において「ましょうか」、「ようか」で言い換えてできなかった1例は、「てあげる」に接続助詞「から」が続く次のような例である。(例)困った時は、私が助けてあげるから、心配しないで。(なかま)

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)(白川博之監修)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄(2011)「日本語教育から見たやりもらい表現」『日本語学』30(11), pp.50-58.
- 庵功雄(2019)「学習者の変化に対応しポストを守るための留学生日本語教育とくやさしい日本語」『日本語教育はどこへ向かうのか』pp.57-78. くろしお出版
- 岩田一成(2011)「数量表現における初級教材の「傾き」と使用実態」『日本語教育文法のための多様なアプローチ』pp.101-122. ひつじ書房
- 小口悠紀子(2016)「初級レベルにおける「を」格の主題化の扱い—日本語初級教科書での導入・練習の分析を例に」『人文学報』512(7), pp.35-54. 首都大学東京人文学部研究科
- 白川博之(2005)「日本語的文法から独立した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』pp.43-63. くろしお出版
- 高橋恵利子・白川博之(2006)「初級レベルにおける使役構文の扱いについて」『広島大学日本語教育研究』16, pp.25-32. 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座
- 田中真里(2005)「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』pp.63-82. くろしお出版
- 中俣尚己(2014)『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版
- 中俣尚己・太田陽子・加藤恵梨・澤田浩子・清水由貴子・森篤嗣(2021)「『日本語話題別会話コーパス: J-TOCC』」『計量国語学』33(1), pp.11-21. 計量国語学会

- 日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法2 第4部ヴォイス』くろしお出版
野田尚史（2005）「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」野田尚史（編）
『コミュニケーションのための日本語教育文法』pp.1-20. くろしお出版
藤村逸子・滝沢直宏（編）（2011）『言語研究の技法—データの収集と分析』ひつじ書房
守屋三千代（2002）「日本語の授受動詞と受益性—対照的な観点から」『日本語日本文学』
12, pp.1-22. 創価大学日本語日本文学会
山田敏弘（2011）「類型論的に見た日本語の「やりもらい」表現」『日本語学』30(11),
pp.4-14. 明治書院
-

教科書・教師用指導書

- ①『日本語初歩』（1981）国際交流基金（鈴木忍・川瀬生郎、凡人社
- ②『Situational Functional Japanese Vol.2: NOTES 第2版』（1994）／『Situational Functional Japanese Vol.2: DRILLS 第2版』（1994）筑波ランゲージグループ、凡人社
- ③『日本語初級1 大地 メインテキスト』（2008）山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子、スリーエーネットワーク
- ④『初級日本語 下』（2010）東京外国語大学留学生日本語教育センター、凡人社
- ⑤『初級日本語 げんきII 第3版』（2020）坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子、The Japan Times 出版
- ⑥『いっぽにほんごさんぽ 暮らしのにはんご教室 初級2』（2012）宿谷和子・天坊千秋・森桂子、スリーエーネットワーク
- ⑦『できる日本語 初中級 本冊』（2012）できる日本語教材開発プロジェクト、アルク
- ⑧『みんなの日本語 初級I 第2版』（2012）田中よね・澤田幸子・重川明美・牧野昭子・御子神慶子、スリーエーネットワーク
- ⑨『文化初級日本語II テキスト 改訂版』（2013）文化外国語専門学校日本語科、文化外国語専門学校（編）、凡人社
- ⑩『まるごと 日本のことばと文化 初中級 A2/B1』（2015）独立行政法人国際交流基金（来嶋洋美・柴原智代・八田直美）、三修社
- ⑪『なかま2 THIRD EDITION』（2018）畑佐由紀子・畑佐一味・牧野成一、CENGAGE Learning
- ⑫『日本語初級1大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』（2010）山崎佳子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子、スリーエーネットワーク
- ⑬『文化初級日本語I・II 改訂版 教師用指導例集』（2013）文化外国語専門学校日本語科、文化外国語専門学校（編）、凡人社
- ⑭『みんなの日本語 初級I 第2版 教え方の手引き』（2016）田中よね・澤田幸子・牧野昭子・御子神慶子、スリーエーネットワーク